

(別紙2)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|-----------|----------|
| 事業所番号 | 2470201290 | | |
| 法人名 | 有限会社コーブンシャ | | |
| 事業所名 | グループホームほのぼの平尾の家 | | |
| 所在地 | 三重県四日市市平尾町78-12 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年9月17日 | 評価結果市町提出日 | 令和4年2月1日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2470201290-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|---------------------------|
| 評価機関名 | 評価認証推進機構株式会社 |
| 所在地 | 510-0947 三重県四日市市八王子町439-1 |
| 訪問調査日 | 令和3年11月9日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当社の理念を尊重し、利用者様に一日一日の生活に納得し、満足感をあじわっていただけるように力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームほのぼの平尾の家は、四日市市郊外の静かな住宅街に位置し、窓からは鈴鹿山脈を眺められる。前には公園があり、春には桜の下で弁当をひらき花見を楽しんでいる。近所には畑も多く、自然豊かな民家改造型グループホームである。今年はコロナの為地域の行事に参加ができなかったが、季節の野菜を届けてもらったり、地域自治会との交流も活発である。近所に住む職員も多く、災害時の協力体制もできている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 今までは地域の行事(ふるさと広場)への参加や、近隣の方々との会話を通して、地域との繋がりを大切にさせていただいていた。 | 「ゆっくり、いっしょに、たのしく」を理念に、利用者一人ひとりの個性を大切に寄り添ったケアを実践している。居間に皆でいながらも、編み物をしたり、テレビを見たり、台所の手伝いをしている人それぞれ思い思いに過ごしている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 今はコロナ禍で出来ていませんが、以前から地域行事への参加や運営推進会議などにも参加していただいたり、地域の方々と交流させていただいている。 | 自治会や地域とのつながりが密で、地域行事参加時には、住民が介助の手伝いをしてくれる。施設行事に公民館や地区の駐車場を貸して貰ったり地域住民から野菜を貰ったりと、ホームごと地域に溶け込み受け入れられている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 以前から地域行事に参加した時、利用者様の介助を地域の方々から支えて下さったりして地域の方には理解していただいている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 今までは運営推進会議で色々な方の意見を聴くことができたが、今は文書報告にてご意見を伺っている。 | コロナの為、会議参加メンバーのほか利用者家族全員に、ヒヤリハットや行事の報告や利用者の近況等の報告を、意見や感想の返信欄をつけた文書で送り、フィードバックを得てサービス向上に活かしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 今は何かあれば市町村からFAXで色々な情報をいただき、協力関係を築いている。 | 包括支援センターの職員が時々訪問し、利用者とは話をしたり、介護サービス相談員や市の職員にも密に連絡を取ったりして助言等を取り入れている。また、包括が実施する利用者アンケートにも協力している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束について職員全員が周知しているが、玄関の施錠に関しては施設が一軒家で玄関も職員や利用者様のいる所より深まっているため、不審者の侵入より職員や利用者様の身を守る為、施錠している。 | 身体拘束適正化委員会を設置し、毎月パートを含めた全職員が参加し勉強し話し合っている。個室の窓と玄関は不審者等の危険防止のため施錠されている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待についても職員全員が周知している。小さいことも見過ごさないよう意識し努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 勉強会など研修は行っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | ご家族様や利用者様が納得されるまで話し合い、不安や疑問点を解決できるまで説明させていただく。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者様やご家族様が、ご意見や苦情などが言いやすいように意見箱を設置し、苦情相談窓口があることも説明している。 | 運営に対する意見や個人的な要望等は、介護計画書の見直し月に電話やメールで計画に対する意見を聞く際や、また家族来訪時に必ず職員が対応し聞くようにしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月一回、代表者も含めて職員全員でミーティングを行い、話し合いをし意見交換を行っている。 | 毎月のミーティングで、意見交換を行なっている。職員が話し易い雰囲気、普段から管理者と職員は都度話し合い、意見したり助言を求めたりしている。初任研修に出た人の報告や意見も取り入れ運営に反映させている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者には日頃から職員の意見を聞いていただいている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員には研修をしてもらったり、勉強会などに参加してもらっている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | ネットワークづくりや勉強会などの機会を設け、サービス向上に取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前にご本人の困っていること、不安に感じていることなどの思いを受け止め、安心されるまで話し合いを重ねている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 申し込み時には十分な時間をとり、本人やご家族の不安や要望などに耳を傾け、安心して入居できる関係づくりに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人とご家族の話を聞き、状況を把握し必要としている支援を見極め、他のサービスも含めて説明している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご本人と一緒に、家族の一員として接している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 現在はコロナ禍の為実施しておりませんが、家族様の面会時などはご本人とゆっくりと過ごしていただくよう努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 現在はコロナ禍の為実施しておりませんが、ご家族や馴染みの深い方々の面会なども、ゆっくりと過ごしていただけるよう配慮している。 | 以前は、行きつけのスーパーでの買い物や馴染みの喫茶店や寿司屋に行っていた。コロナ禍では、人ごみを避けて地元の神社や名所旧跡にドライブに行き昔を懐かしんで貰う支援をしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士が良いかわり方ができるよう、職員も間に入り支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス終了後にも必要に応じて、相談などの支援に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご本人との対話をもって気持ちを聞き、関心のある事を深めるよう努めている。 | 皆で昔の話をしている時や一人ぼつんとTVを見ている時に職員が隣に座り話を聞いていると、本人の思いが見えてくるという。普段の何気ない会話からも気持ちを汲み取り対応している。話すことが困難な場合は、特に気を付けて表情等見逃さないようにしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族様より今までの生活環境などを詳しく伺って、ご本人にとってどのようなケアが適切かを職員同士で話し合い、実践に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ご本人に合った生活リズムを大切にして、体調の変化に気を付けて楽しく過ごしていただけるよう努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 月に一回のミーティングでカンファレンスを行い、見なおしがあれば変更している。サービス担当者会議にもご家族様に参加していただいている。 | コロナ以前は、家族全員参加の「サービス担当者会議」で家族や利用者の意見を聞き、毎月のカンファレンスで職員全員で話し合い見直していたが、今は電話やメールで聞いた「運動」や「計算ドリル」等の家族の意見や要望を反映させ現状に即したものとしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 各個人様の記録を作成して、日々変化や気づきなどがあれば記録している。職員間での情報は常に共有している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 急変時など、ご家族様の対応が難しい場合は職員が同行したりする。 日用品の購入などは柔軟なサービスを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | コロナ禍以前は地域住民の方々の支援を受け、「ふるさと広場」などいろいろな行事に参加させていただいていた。時々外食を楽しめる支援もおこなっていた。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 月二回の往診と年二回の健康診断を受けていただいている。二十四時間体制で連携をとっている。急変時にも対応していただいている。 | 本人や家族の希望を尊重しているが、殆どが施設の協力医に変更し、隔週の往診と24時間体制の連携で家族は安心している。内科以外の受診の職員対応時は、電話やメールで受診結果や薬の情報を家族と共有している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 何かあれば情報や気づいたことを詳細に伝え、適切な対応をしていただけるようにかかりつけ医と連携をとっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 主治医や病院、ケアワーカー、ご家族様と連携し、情報交換や相談をして関係作りを行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重症化や終末期のあり方については、出来る場合、出来ない場合もあるので、入居時に他の施設の申し込みも同時にさせていただき、支援している。 | 看取りは謳っていないが、入所時に家族と話し合いできる限り希望に沿えるよう努めている。医療行為が要らない場合は、訪問看護や往診で24時間体制で見守り、医師に相談しながら、都度家族と職員で話し合い対応を検討し支援している。 | 原則「見取りをしない」方針で、経験が殆ど無いので、医療行為の要らない看取り案件が突然発生する事態に備えて、職員が不安なく支援できるよう研修や看取りの対応マニュアルの作成が望まれる。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 応急処置の仕方、急変時の対応は医師に連絡して指示を受ける。救急対応での訓練は定期的に行なっている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練などを行い、職員全員で安全対策を確認し、消防署からの指示や運営推進会議で近隣住民との相談など、協力体制を築いている。 | 年2回の避難訓練は消防署立会いの下、夜間想定訓練や消火訓練を行なっている。自治会の協力で地域の公会所を避難場所として借りている。また、近所の人に有事の際の見守り協力を依頼してある。水、食料、おむつ等も備蓄されている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 挨拶や言葉掛けは必ず行っている。 聞きなれた馴染みの言葉づかいで対応している。 プライバシーに関しては細心の注意を図り接している。 | 一人ひとりの癖や性格を把握した上でプライドに配慮しつつ親しみのある言葉で声掛けしている。人前で利用者の話はしないことや、入浴時やトイレの失敗時の配慮など、誇りやプライバシーを損ねないような支援に心掛けている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ご本人の思いや訴えには耳を傾けて、出来る限り迅速に、思いに添えるように努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ご本人の体調をみながら支援し、意思や希望に沿って支援する事を心掛けている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 好みの物を着ていただき、清潔にしています。 施設での訪問理容を利用していただいている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者様に野菜の皮むきや盛り付けなど手伝っていただいている。 | 食事の準備を通じて「できる力」が発揮できる取り組みがあり、またメニュー作りの過程で希望を聞くなど、食への意欲・関心に繋げている。脳梗塞のある人にも皆と同じ物を楽しんで貰えるよう最低限の刻みとし、食堂で一緒に食べられるよう支援し笑顔が戻ってきている。 | 食事の一連のプロセスを利用者の暮らしの支援として捉え取り組んでいる。更には、職員と利用者が家族のように「一緒に物を一緒に食べる」ことにより、食べる意欲や食事の喜びに繋げる取り組みも望まれる。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりの体調に合わせ、摂取していただいている。 水分は一度に沢山ではなく、こまめに摂っていただいている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後に一人ひとり洗面所で口腔ケアをしていただく。ご自分できれいに磨けない方は支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりの排泄のパターンを把握し、個々に応じて声掛けをして、見守りでトイレでの排泄を支援している。 | 把握している利用者一人ひとりの排泄パターンに応じ様子を見て声掛けし、自立困難な人もトイレで排せつできるよう支援している。また自立の人にも、目を配り見守り支援をすることでトイレでの排せつが長く続くような取り組みをしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄確認表を記入し、医師の判断により内服液で調整したり、食事や水分にも気を付けている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴は介助支援が必要なため、二組に分けて一日おきに入浴して頂いている。 ご本人の体調に合わせて支援している。 | 週に3度の入浴は、利用者の気分や状態により順番を変えたり、一人ずつゆっくり入浴出来る様な配慮もしている。車椅子利用者は、3人介助で浴槽に浸かって貰う努力をしている。拒否の人には、「足だけ、汚れたとこだけ」と徐々に慣れて貰う等の工夫で支援し、拒否が無くなった。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中には利用者様に合わせた、ゆっくりした生活を送って頂いている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 居宅療養管理指導を活用しているため、医師、薬剤師様より指導していただき、服薬支援している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 日々の生活の中からお好きなことや得意なことを見つけ出して、一緒に行ったり、気分転換を図ってもらうよう支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 気候の良い日には施設前の公園などに出掛けたり、季節に合わせた行事、外出支援をおこなっている。 | コロナ以前は、買い物やモーニングにも行っていたが、今は向かいの公園や施設の庭やベランダでできるだけ戸外の空気に触れて貰うよう支援をしている。また季節の移り変わりを感じて貰おうと、今でも春は桜、秋は紅葉狩りに弁当を持って出かけている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 利用者様のお金は利用者様の預り金として施設で管理し、必要に応じてその中から出させていただきます。外食支援や利用者様が購入を希望された時などに出金する。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご本人の希望があれば電話や手紙の支援は行っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節感を取り入れ、花等を共有の空間に飾ったりして、四季の変化を楽しんで生活をしていただく工夫をしている。 | 居間が見渡せるキッチンから、職員は利用者とは話をしている。昼食準備の音や匂いの中で話し声や笑い声が絶えない。ゆったりとしたソファで寛ぎながら、テレビを見ている利用者もいる。活動や外出の記録のアルバムや便りが置いてあり、皆で話しあう種となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 利用者様同士でご自分達の座る場所を決めて座られています、時には思い思いのところで過ごされます。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室は利用者様が居心地よく過ごせるよう、ご家族が利用者様の為工夫して下さいます。 | 入所前に馴染みの物や使い慣れた物の持ち込みを勧めているが、作り付けのクローゼットがある為家具の持ち込みは少なくすっきりとしている。観葉植物を育てたり、家族の写真を飾ったりと思い思いに居心地よく暮らせるように支援している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 一人でも安全に歩行したりできる様、各所に手すりを設置したり、トイレや浴室などわかりやすく表示しています。 | | |